

## 令和7年度 第1回山梨県男女共同参画審議会 議事録

1 日 時：令和7年9月5日（金）午前10時～午前11時20分

### 2 審議会出席委員

（審議会委員）

浅川節子委員・芦澤香苗委員・牛田育美委員・大石正哉委員・齋藤智子委員・  
萩原和也委員・平田良江委員・豊前貴子委員・丸茂正樹委員

9名出席

（事務局等）

総合県民支援局長、多様性・働き方統括官、男女共同参画・多様性推進課長、  
男女共同参画・多様性推進課総括課長補佐、男女共同参画推進センター館長、  
男女共同参画・多様性推進課職員、やまなし文化学習協会総括責任者（指定管理者）

### 3 会議次第

1 開 会

2 総合県民支援局長挨拶

3 会長挨拶

4 議 事

（1）「第5次山梨県男女共同参画計画」における令和6年度施策の実施状況について

（2）「第5次山梨県配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画」  
における令和6年度施策の実施状況について

（3）意見交換

5 その他

（1）県政モニターアンケートの実施について

（2）その他

6 閉 会

### 4 概 要

◇事務局から

本日の会議は、委員数15名中9名が出席しており、委員の2分の1以上の出席となっていることから、山梨県男女共同参画推進条例第22条第10項の規定により、会議が成立していることを報告。

◇ 議 事（条例第 22 条第 9 項により、会長が議長）

（１）「第 5 次山梨県男女共同参画計画」における令和 6 年度施策の実施状況について	
議 長	「第 5 次山梨県男女共同参画計画」における令和 6 年度施策の実施状況について、事務局から説明を願う。
事務局	<事務局説明>
議 長	質問・意見等はあるか。 無いようなので次に移る。
（２）「第 5 次山梨県配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画」における令和 6 年度施策の実施状況について	
議 長	「第 5 次山梨県配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画」における令和 6 年度施策の実施状況について」事務局から説明を願う。
事務局	<事務局説明>
議 長	質問・意見はあるか。
委員	「数値目標 1 DV被害について誰にも相談しなかった割合」について、説明があったが、「男女共同参画・共生社会推進に関するアンケート調査」を見ると、その理由についても調査していると思われる。「DV被害について誰にも相談しなかった」理由として、何か整理されていることがあれば伺いたい。
事務局	「誰にも相談をしなかった」理由として、「相談することではない」 37.7%、「自分にも悪いところがあったと思ったから」 21.3%などが、主な理由として挙げられており、DVを軽視する傾向や、正しい認識の不足が背景にあると考えられる。 また、令和 6 年度に「誰にも相談しなかった」と回答した割合は、特に男性の増加が顕著であり、男性が相談しづらい状況があると推察される。今後は、DVに関する正しい理解の促進に向けた啓発活動を強化するとともに、男性相談窓口の存在を明記したパンフレット等を配布して、相談環境の整備と認知向上を図っていきたい。
委員	DVを受けている人は、例えば「自分が悪い」、「人に説明したり、相談したりするほどのことではない」と思ってしまう性質の方が多い。そういう方が、きちんと自分の状況を認識できることが、まずは大切。今の説明で、男性被害者も少し

	<p>ずつ増えているとあった。ニーズがある部分への働きかけをお願いしたい。</p> <p>また、感想として、「数値目標 4 当事者の居場所づくりに対する取り組みの満足度」が、数値的にとても良いというのは、やはり「自分のことを話して、聞いてもらえる場所がある」など、同じような境遇の当事者同士が語り合える場が、本人達にとっては、安心できる場所だったり、「こういうことでも相談していいんだ」と思えたりする場であることと思う。このような場づくりを、個人情報を守りながら、進めていただけると良いと思う。</p>
(3) 意見交換	
議 長	<p>これまでの県からの報告、また委員各位の日頃からの活動等を踏まえて、今後の山梨県の取り組みについて、一人ずつご発言いただきたい。</p>
委員	<p>資料を事前に確認した中では、県担当局が非常に親身になって、各種調査や施策を考えていると感じた。</p> <p>私は、女性団体に所属しているが、コロナの前後で有権者の意識というのは非常に変化をしてきて、特にコロナ後に顕れるのは、考え方が非常に現体制についての不満・不平や、「内にこもる」という傾向があると感じている。</p> <p>暴力の関係で見ると、物理的な暴力だけではなく精神的暴力含め、女性が男性に暴力を振るうというのが、非常に増えてきたのではないかなと思う。</p> <p>私どもの団体の中では、このようなことが非常に顕著であるかどうかの調査は特別していないが、日常的な意見交換、情報交換の中で、各所属団体では、あまり顕著に見られるという傾向がないと把握している。しかし、県の調査を見ると、決して良い方向ではない。むしろ世の中の閉塞感と言うか、個人的に精神的に追い詰められている部分が、家庭の中に鬱積していると感じている。</p> <p>私たちも、団体の高齢化というのもあるので、若い方々の参加・交流について、いろいろ知恵を絞って活動していきたいと思っている。</p>
委員	<p>農業の分野ということで、私は山梨県の農福連携、障害者と福祉と農業を合わせた新しい事業を県でも進めているところで活動をしていた。</p> <p>その中で感じていることは、若い農業者は、多様性もあり、お互いを認め合うということができているが、70代、80代の女性の農業者や福祉施設の施設長が、働く人たちを自分の支配の中に置きたいという願望があり、とても残念に感じる。</p> <p>20代や10代の方々は、多様性や、お互いを尊重し合うという認識はかなり根付いていると思うが、高齢女性の「自分たちの常識はこれで合っているのか、合っていないのか」という、「自身の常識を問う」という部分の改革を進めないと、圧力が高いままになっていると感じた。</p>

	<p>この資料の中にも女性を登用している市町村農業委員の割合が低いとあったが、そういった面でも男性側は、女性が活躍するとか、農業の分野でもお互い対等に農業を楽しむということがあるが、同性同士の高齢女性の皆さんは、一括りにしてはいけないと思うが、私が感じている中ではかなり圧力が高いまま。私に関わる中では、「自身の常識を問いましょう」ということをいつも話している。そのようなことを農業分野で感じている。</p>
委員	<p>「資料（１－２）」の報告書について意見を申し上げたい。</p> <p>まず「成果目標８」について、育児休業を取得する男性県職員の割合が大幅に増加したことは、大変喜ばしい成果と思う。</p> <p>一方で、「山梨県内企業の働き方改革等実態調査」によると、全体の育休取得率は女性が８８．６％、男性が２２．３％とされていた。さらに、男性正規従業員の育児参加促進の取り組みについて、県内企業１，３０３社中、特に実施していないと答えた割合が６２．５％となっていた。</p> <p>県職員に対する取り組みは、すごく成果を上げていると思うが、民間企業における男性育児休暇取得というのは、依然として大きな課題が残されていると思っている。この点について、県として支援や方策を講じていただければと思う。</p> <p>２点目は、「成果目標１２」の相談件数に関することで、今後周知を進め、認知度が高まることで、相談件数は増加していくと予想される。その際の相談員と支援の体制について、山梨県女性相談支援センターの「令和６年度 女性支援事業のあらまし」によれば、女性相談支援員が４名配置されており、いずれも会計年度任用職員と記載されていた。相談員や支援員は高い専門性を備えているため、専門職として人員を配置するべきではないかなと個人的に思っている。</p> <p>この点、過去の審議会でも、同じような指摘が結構前からされているが、今後も変わらないのかなと思っている。今後、相談件数が増えていくと推察される中で、支援員のあり方については、また検討していただきたい。</p>
委員	<p>連合は、企業の労働組合が集まる「働く仲間の集団」。そういった中で、各企業を含め、働く人の目線から見ると、「ジェンダー」や「ハラスメント」など様々な施策やセミナーなど周知活動をしていると思うが、意外と浸透してない部分があると感じる。</p> <p>特に女性活躍推進は、かなり前から話が出てきていたので浸透してきていると感じるが、「ジェンダー」として多様化という部分になると、意外と皆意識していないのかなと感じている。企業の人と話すと、会社でもしっかりと推進計画を立てているが、なかなか進まない。働いている人の意識の問題なのか、取り組みの状況なのかは不明だが、取り組みが進まないということは、行政を含めて、県を中心にもっと浸透させていく必要があるのかなと思っている。</p>

	<p>また、最近は働き方改革で、リモートワークや在宅勤務を取り入れる企業も多くなった。その中では、特にフリーランスの方たちがそうだが、集まってセミナーに出るといったことに抵抗がある。例えば動画、Y o u T u b e、S N Sを使うことで、その人たちにも広げられると思う。様々な方法で周知活動をしていく必要があるというのは感じている。</p> <p>まず、計画を立てて進めている中でも、受け取る側の意識が高くないと伝わらないと感じているので、様々セミナーがあつて、多方面に広げていくということであれば、多様なやり方が必要だと感じている。その点も検討していただければありがたいと思う。</p>
委員	<p>私は、子育て支援に長く従事しており、現在は大学生の活動支援や、甲府市の委託事業で、女性の起業などの活動の支援している。</p> <p>子育て支援や起業支援などの活動で感じるのは、女性は第一に、家族のことを考えてしまう習性があるということ。それも、刷り込みかもしれないが、自分にとって家族が大切だという価値観からで、もちろん男性にその価値観がないとは思っていないが、女性の場合はライフステージが変わるごとに仕事や生き方を変える人が多いように感じている。それが本人の望みか、仕方なくかというのは、それぞれになると思う。ただ、積み上げてきたキャリアを大切にしたい女性もいて、その方々への支援というのはすごく進んでると思う。例えば管理職や保育のこと。一方で、「家族との時間も大切にしたい」「子供と関わる時間を取りたい」「母としての時間を取りたい」と思っても、仕事をしながらでは、職場の理解や、制度があっても使えないとか、賃金の面で生活が成り立たないということもあり、叶わない現状もある。そのような中で、多様な働き方という意味で言うと、起業を目指す女性が増えていて、それは「自己実現」の部分もありつつ、家族との時間をうまくとるためのことでもある。</p> <p>県では、社会貢献活動に対してや、ソーシャルイノベーター事業が進んでいるということを知った。女性の起業は稼ぐためのビジネスではなくて、身近な困りごとに関する思いやり起業がすごく多い。例えば、DV、多様性、文化的なもの、発達に関することなど。そういったことで起業や活動をするのが多くなっているので、起業に限らず、自分のライフスタイルに合わせた働き方を得られて、家族が幸せに暮らすことができるような山梨県であってほしいと願っている。</p> <p>男女共同参画の実現の根本は、誰もが自分の人生を自分で決めていいということだと私は思っているので、山梨県が、その軸で後押しするような施策を進めていただけるとありがたいと思っている。</p>
委員	<p>男女共同参画推進委員会では、働き方、暮らし、多様性の3グループで活動をしている。働き方グループでは、山梨えるみんの取得企業を増やそうというイベン</p>

委員	<p>トを企画している。</p> <p>暮らしグループでは、8月に市民の男女500人をアトランダムに選んでアンケート調査を実施。今までの市民アンケートでは、掘り下げた質問事項が無く、実態を把握することが難しかった。今回は、市民が、まず「男女共同参画」という言葉を知ってるかというところから始めて、様々な質問を投げかけている。9月末回答期限で、集計し、中身を精査し、3月頃の市長への提言に向けて活動をしている。</p> <p>多様性グループに関しては、パートナーシップ制度を実施しており、啓蒙活動を市民に広めていくかたちで活動をしている。</p> <p>また、市は消滅可能性都市に挙がってしまったが、その中でも若い世代、特に10代、20代の女性に対してできることはないかということで、暮らしグループでは、1月の成人の日には市長と若い方とでコミュニケーションが取れるようなイベントを考え、市役所と調整をしている。いずれにしても、若い世代が、例えば都会に出て戻ってこないということもあるので、市として、「戻ってこられる魅力がある」ということを念頭に、いろんな活動を広げていこうということに取り組んでいる。</p> <p>市の話しかしていないが、特に県に対して「何をしてくれ」というのは、今は無い。まずは地域活動の中で、地域でできることをやっていくということで活動している。</p> <p>先ほど、「育児休暇を取得する男性職員の数が増えて、結果、企業の方にも進めていただきたい」という発言があったが、それには賛成。</p> <p>事務局の説明の中で、「県では、支援計画表の作成や面談を実施して、フォローしている」とあったが、そういう取り組みが取得率につながっていると思った。しかし、復帰した職員が、「実際に取ってどうだったか」というような面談であるとか、これから取得していく後輩の職員の方に、「こういうところが良かったよ」「この辺はこうしといた方が、奥さんが怒らなかったよ」と伝えていけるような、良いつながりをしていただければ良い。それをまた県内企業に、「こんな風に進めているから取得率が高い」ということで、浸透させていっていただきたいと思った。</p> <p>男性も多く鬱になるというような問題も指摘されているので、男性をフォローしていくことも大切なこと。一方、それが今度、育児となると、やはり男性の働き方、それから女性の働き方というのを考えていかななくてはけないと思う。</p> <p>私たちは母親へのインタビュー調査を長く続けているが、男性は協力しようと思っており、職場でも「休んでいいよ」、「早く帰っていいよ」と言われるが、上司や同僚が残っている中で、帰れない雰囲気がある。先ほどの計画を立てていても、進まないというのが、紙面上のことになっているからで、それぞれの職場で「ここはやるから、帰ってお子さん見たら」や、反対に今度自分が介護をしなければ</p>
----	---

	<p>ならなくなった時に「早く帰らせてほしい」と、素直に言える職場を作っていないと、計画があっても、実際にはなかなか進まないと思う。</p> <p>ダブルケアのインタビュー調査を行っているがうまくいっている家庭は、家族の中での協力体制がしっかり取れている。確かに仕事も子育ても、ケアもと言うと忙しいが、パートナーと一緒に協力できていると、問題を抱えながらも、うまくやれているというのが見える。反対にそうでないところは、女性が仕事をして、家に戻ったら育児もして、介護もしてと、結局女性に負担がかかってくるというような家庭も、まだまだ多くある。そういう意味で、本当に平等で男性も女性も協力してできる世の中になるように、山梨県が取り組んで、一個ずつ問題を解決していったいただければありがたい。</p>
委員	<p>「成果目標3 管理職になりたい女性職員の全女性職員に占める割合」は、男女関わらず管理職になりたくないという方が増えてるので、これを男性で取ってみても面白い思ったところ。</p> <p>LGBTの関係、「成果目標13」、ここは今、世界のリーダーがこのような流れに反対するような発言や政策を取り始めていて、SNSで情報が一気に拡散する時代だからこそ、影響も少しあるのかなと、少し心配になるところ。</p> <p>これまでの発言で、男性の育児休業が何回か出ている。例えば、中小企業は取得率が低いという結果があったが、これは時代の変化で取れるようになるのかなと考えている。先日、80歳を超えたぐらいの経営コンサルタントと話す中で、昔、週休1日が週休2日になるときに、多くの経営者が「それでは会社が回らない」と言ったが、少し時が経つと「普通に回るじゃないか」となった。また、残業も、多くの規制がかかるなかで、「仕事が回らない」と多く経営者が言ったが、実際は「残業が減り、逆に収入が増えている」と、こういったこともありうる。</p> <p>やはり変化には、必ず対応していけるもので、中小企業が男性の育児休業の取得が難しいと言っているが、これは絶対に出来るようになる。あらゆる支援策も出ているので、しっかり進めていって、男女ともに、子育ても含めて、幸せになっていけたらいいと思う。</p>
委員	<p>山梨経済同友会に所属しているが、経済同友会としても、いくつかの柱を立てて事業をしている。その中に、女性活躍推進ということで、「女性にプラス！パートナー会議」という取り組みがある。各企業の女性社員を集めて、パネルディスカッションや、講演会をしている。今年は6月に開催した。内容は、県内企業で、女性が中心となってチームを作って、会社のブラッシュアップ活動をしている企業を、各社の女性社員と見学に行き、実際に意見交換をして、最後に懇親会というイベントを開催した。イベントの目的は、各社の社員が繋がって、意見交換をして、会社を見るという場であって欲しいということ。</p>

	<p>山梨県も、本日資料を拝見して、実際多くの事業をしている。経済同友会でやっているのは、比較的職場にフォーカスした内容だが、これからも県とともに、同友会としても活動を重ねて、私たちは啓蒙活動ということになるが、推進していきたいと思う。</p>
事務局	<p>とにかく行政だと、視野が狭まってしまいが、本日、皆様の意見をいただき、多角的な、様々な面から、問題が浮き彫りにされて、またこういうことが必要だという新たな気づきも得ることができた。今年度、さらに来年度以降の本県の行政に生かしていきたい。</p>
議長	<p>以上で議事を終了とする。</p>